

市では、九州大学 大学院 農学研究院附属 昆虫科学・新産業創生研究センターと連携し、さまざまな取り組みを進めています。

昆虫をはじめとする身近な生きものと私たちの暮らしとの関わりを、九州大学の先生たちがわかりやすく説明します。

身近な水たまりから発生する ヒトスジシマカ



夏を中心に我々を悩ませている蚊。その中でも街中で最も多いのが黒いボディーに白い縞模様があるヒトスジシマカです。ヒトスジシマカは植木鉢の水受けや側溝の雨水マスなどで発生する、人工環境に特化した蚊です。福岡では5月～11月に発生しますが、ピークは9月になります。普段は公園の植え込みなどの茂みに潜んでいて、人が近づくと刺します。蚊は人が出す二酸化炭素や水分、体温などを感知するので、運動後や飲酒後は特に刺されやすくなります。刺されたら掻かずに、20分我慢するか、冷やすなどすると痒みが低減します。爪でバッテンは、禁止です。対策としてはディートやイカリジンを含む虫よけ剤が効果的なので、蚊のシーズンに屋外活動する人は活用してく

ださい。家の近くで蚊の発生を減らすには、庭などに放置しているプラスチック容器などを片付け、水が溜まらないようにするのが大事です。蚊の幼虫が成虫になるまで10日程度なので、1週間に1度の手入れが有効です。自宅では「蚊がいなくなるスプレー」などが効果的なので、うまく活用してみてください。



研究者プロフィール

ふじた りょうすけ
藤田 龍介



- 九州大学 大学院 農学研究院 衛生昆虫学研究室
- 専門分野：衛生昆虫学、ウイルス学等、虫が媒介する感染症に関する研究